

葛巻病院 8月から内科医を増員

25年度病院事業会計決算状況

(税抜き)

区分	25年度	24年度	前年対比
事業収益(a)	8億2,746万円	8億4,966万円	△2.6%
事業費用(b)	8億 95万円	8億1,160万円	△1.3%
純利益(c)=(a)-(b)	2,651万円	3,807万円	△30.4%
前年度繰越欠損金(d)	2億3,523万円	2億7,330万円	△13.9%
当年度未処理欠損金(d)-(c)	2億 872万円	2億3,523万円	△11.3%

25年度決算は、事業収益8億2,746万円に対して、事業費用が8億9,500万円となり、2億651万円の純利益を計上し、単年度黒字決算です。

25年度決算
認定

病院事業会計 黒字決算に

これにより、未処理欠損金が2億8,720万円に減少しました。決算の状況は、上の表のとおりです。

昨年度、葛巻病院では健康講話の開催、訪問診療や看護科職員の接遇改善など、医療サービスを向上させる新たな取り組みを始めました。患者の状況は、年間の延べ入院患者数が、1万3,934人で前年度に比べて10,188人、7.9%増加しました。外来患者数は、3万3,980人で前年度に比べて2,900人、7.9%の減少です。新病院の開設を見据え、さらなる経営努力が必要と考えます。

7月定例会議

7月定例会議は、7月4日から11日までの8日間の日程で行われました。町長から提出された議案は、26年度補正予算や25年度葛巻病院事業会計の決算認定など5件、すべて全議員の賛成で原案どおり『決定』しました。一般質問では2名の議員が登場し、町の対応や考えをたずねました。



佐々木葛巻病院名誉院長による健康講話の様子（四日市地区）

初の7月定例会議

議会総合条例を施行後初の「7月定例会議」を開きました。

6月から7月の開催に変更した理由は、国会や県議会の閉会後に町の議会を開くためです。

国や県の予算が決まったことで、国の補助事業に関連する町の予算などを、速やかに審議して決めることができます。

これにより、工事発注の事務などを、早く進めることが可能になります。なお、7月に定例会議を行っている議会は、県内で本町のみです。

内科医を増員

葛巻病院事業会計の補正予算で、医師住宅を新築する予算を提案。

8月から新たに女性の医師が着任することにより、旧役場跡地（下町）に建設します。

着任した山崎都先生は島根県の出身で、東北大学病院などで勤務され、8月から診療を開始しています。内科医で、呼吸器、老人病学や和漢診療学が専門です。

また、来年の4月には、男性の内科医が着任する予定です。新病院の開設に向けた諸準備が進んでいます。



葛巻病院に着任した山崎都副院長

決算特別委員会

決算特別委員会（山岸はる美委員長、山崎邦廣副委員長）を設置し、7月8日に病院会計の決算審査を行いました。

監査委員の意見

25年度決算は、一般会計からの繰り入れにより、単年度黒字決算です。引き続き、財政の健全化を望みます。

一般病床の利用率が37.3%と低迷しています。医療収益の確保と経営の安定化への取り組みに努力が必要です。個人未収金は、効果的な回収を求めます。



町長に決算審査意見書を提出する監査委員

回収不能未収金 整理の考えは 葛巻病院

回収が見込まれない個人未収金を整理する考えは、

新病院の開設までに、整理する計画で事務を進めます。

病院が目指す医療体制は 葛巻病院

町民に親しまれる病院として、望ましい医療体制は、

医師、看護師、事務職員が連携し、それぞれの役割をしっかりと果たせる医療体制づくりに取り組めます。